

七夕まつり準備着々

高校生が斬新デザイン

常盤木学園 地元企業と飾り制作



七夕飾りのデザインを発表する2年生

仙台市青葉区の常盤木学園の生徒が企業に依頼され、仙台七夕まつり（8月6～8日）で展示する七夕飾りのデザインを考えた。5種類が別の企業の協力で実際に制作され、期間中に青葉区中央のクリスロード商店街に飾られる。31日に校内で発表会があり、2、3年生計5チーム



3年生チームのデザイン

がスクリーンを使い、デザインのコンセプトや配色の狙いなどを説明した。3年生チームは、一般的に横じま模様が多いくす玉をあえて斜め模様にして特徴を出

した。只埜真子さん(18)は「目に優しい緑と目を引く赤を使った」と話した。市内でビジネスホテルを複数展開する松月産業(青葉区)が、毎年掲げる七夕飾りのデザインを生徒に依頼した。企業と連携した授業の一環。5種類の七夕飾りは長年制作を手がける鳴海屋紙商事(若林区)が形にする。仕上げ作業は生徒も手伝う。発表を聞いた鳴海屋紙商事の鳴海幸一郎さん(56)は「斬新なデザインに衝撃を受けた。飾りの個性が強かった昔の七夕まつりに、原点回歸するきっかけになればいい」と話した。

くす玉 作って身近に

今月から3回 大正園で体験会



七夕飾りに貼り付けるペーパーフラワーを作る佐藤社長

夏の仙台七夕まつりで展示する七夕飾りの制作体験会が6、7月に計3回、仙台市青葉区のハピナ名掛丁商店街にある茶・和雑貨販売「大正園」で開かれる。主催する仙台ツーリストインフォメーションデスク(青葉区)が参加者を募っている。体験会は各回とも午後4時から約2時間。制作する七夕飾りは全長約4.5mで、大正園前に展示する。6月15日は飾り上部のく

す玉に下地の障子紙を貼り、ペーパーフラワーで装飾する。22日は吹き流し部分を飾り付け、7月15日に仕上げる。1回だけの参加も3回連続も可能。参加者には抹茶などを振る舞う。大正園は、まつり初日の飾り付け審査で多くの金賞を受賞してきた。体験会は佐藤英久子社長(59)が講師を務め、手作りならではの立体感ある七夕飾りの魅力を伝える。「初めての方も経験者も七夕飾りを身近に

感じて、連帯感を味わう会にしたい」と話した。参加費は各回とも中学生以上2000円、小学生1300円。定員は各20人。それぞれの開催日の前日正午までに、インフォメーションデスクのウェブサイトです申し込み。